



# ピー子通信

VOL.02



## アツい夏のピー子たち

マチイ企画ピー子会員担当主任

出雲 裕史 (イゾモ ヒロシ)

今年7月の後半から晴天が続く、久しぶりに暑い夏を実感しておりますが、当地(葛川)から(わ)でも朝夕は涼しく過ごせるものの中は鶏たちにも厳しい季節となり、親鳥たちもひと回り小さくスリムになったように見えます。しかし、さすがに小さきピー子達は食欲も衰えず、ヒナ小屋の扉を開くと元気に飛び出してきて飼育係を困らせます。今年7月に雛を入れたので、保温箱から外の小屋に移してからヘビが来ないかと心配でしたが(過去に2羽、アオダイショウに呑まれた)、どうやらみな無事に育っているようです。

お盆休みに入り、葛川でも夏の行楽シーズン真っ盛りという感じで山へ川へと多くの人が訪れますが、今年も時々、車の事故や山での遭難の話が耳にします。こちら(マチイハウスやピーコ鶏舎等)へ遊びに来られる際にはくれぐれも車の事故(行楽帰りの居眠り運転が多い)、山や川での事故(無理をせずに楽しむ)に遭わないよう余裕を持っていらしてください。とはいえ、今年の安曇川は比較的水量が少なく、我が家の子供たちは連日川遊びに夢中です。夏休みも残り少なくなりましたが、京阪神から日帰りでも気軽に自然の中で遊べる場所としてこの地域は小さい子供連れにも最適な場所だと思います。

### 鶏の解体体験教室 at マチイハウス

7月23日マチイハウスで鶏解体体験会を開催しました。曇り空で少し天気が心配された中、予想を上回る参加者があり、期待以上に盛り上がったイベントとなりました。鶏を捕まえ、血を抜き、毛をむしり、食べられるように肉をばらす事が目的です。日ごろ街中で見ることのできない鶏の解体に初めは遠巻きに見ていた子供たちも、慣れるにしたがって毛抜きなどを手伝う子も出てきたり、それぞれが興味津々の様子。なぜか小さな子供のほうが大人よりもずっと大胆でした。



解体では3名(男性2名、女性1名)に1羽ずつ体験していただきました。手羽、胸肉とモモを外しササミを引っ張り、竜骨\*を開くと新鮮な内臓が顔を覗かせます。自家用の鶏の醍醐味は、新鮮な卵はもちろんですが健康で新鮮そのものの内臓を刺身や煮込みでいただくことでしょう。鶏さん本当にありがとうございます。

### 竜骨突起 (りゅうこつ・とつき)

鳥類の胸の骨の中央にある大きな突起。翼を動かすための筋肉は「胸筋」と呼ばれ、それがくっついているのが「竜骨突起」。ダチョウやキウイ、エミュなどの飛ばない(羽ばたかない)鳥は、竜骨突起といえるものがない。鳥類の中で、竜骨突起がよく発達しているのが、スズメ目、アマツバメ目、ハト目、キジ目(ニワトリはキジ目)。ペンギンは、海中を「飛んで」いるので、竜骨突起がある。

### ヒヨコを小屋に移しました。(7月25日)

いよいよヒヨコをヒナ小屋へ移します。数日前から保温はしていなかったけど朝夕の冷え込みが少し不安。天気の良さそうな日を選んで決行しました。猫やイタチなどの動物に脅されないか心配ですが、親鳥たちが守ってくれる？



### 今日のピー子。(8月5日)



もうヒヨコではありません。小さな鶏冠(とさか)が生え始め、羽が伸び揃ってきています。動きはとて素早く、顔つきも引き締まりました。

最近、大昔の恐竜にも羽毛が生えていた可能性があると言われていますが、こうしてつくづくと鶏たちを眺めていると、動きは映画に出てくる恐竜にそっくり。これのでっかいのが襲ってきたらひとたまりもありません。

### (8月14日)

体高20cm、姿は親鳥のミニ版です。それなのにまだピョピョと甲高い声で鳴いています。

